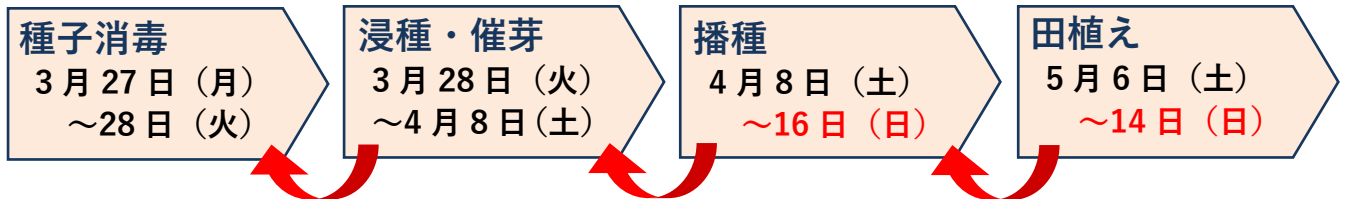


「田植日」から逆算して各作業の日程を決めましょう！

早すぎる播種・遅い田植えは「**老化苗**」につながります！
浸種時の水温、浸種期間に注意して「**出芽不良**」を防止！

気象変動に負けない稲作を実践するために、「**根張りの良い健苗**」の育成が必要不可欠です。各作業のポイントを確認するとともに、無理のない作業計画を立てて落ち着いたスタートを切りましょう。

1 作業日程の目安



田植日から逆算！

2 塩水選

決められた比重（うるち1.13、もち1.08）で実施後、水洗いし、水切りします。

引き続き温湯消毒を行う場合は、塩水選後1時間以内に処理します。1時間以上経過した種籾は、発芽率低下防止のため、籾水分15%まで乾燥した後処理します。

3 種子消毒

種子と一緒に配布のチェックリストを確認し「ばか苗病」の発生を防ぎましょう。

前年に発生したところでは、要因を分析し、再発防止に努めましょう。

【薬剤消毒】

- ・種子消毒薬剤の例とその使用法は、下表のとおりです。
- ・薬液の温度は極端な低温にならないようにしましょう（10～15℃未満を確保）。

薬剤消毒法	使用薬剤	濃度・薬量	使用方法
低濃度長時間処理法	テクリードCフロアブル (苗立枯細菌病にも効果あり)	200倍	24時間種子浸漬後、浸種
湿粉衣法	ベンレートT水和剤20	乾燥籾重の0.5%	種子粉衣後、2～3日間ひろげて陰干し後、浸種

※庄内地域において、スポルタック剤の「ばか苗病」耐性菌が確認されています！耐性菌蔓延防止のため、使用を控えていただくようお願いします。

農薬の使用に際しては、登録の有無を確認した上で、

①適用作物、②使用量、希釈倍数、③使用時期、④使用回数を厳守！

【温湯消毒】 うるち品種のみ可能です。必ず令和4年産種子を使用しましょう。

- ・保温機能がある場合、58℃20分または60℃15分（厳守）で温湯処理を行います。
（ただし、使用する機器の説明書等に温度や時間の記述がある場合は、それに従って使用します）
- ・最初に種子袋を5回程度上げ下げし、内部まで温湯を速やか、かつ十分に浸透させます。
- ・温湯処理が終わったら、浸種槽に入れ粃を十分に冷まし、そのまま浸種を開始します。
- ・温湯処理後、直ちに浸種作業をしない場合は、再感染防止のため、脱水後に通風乾燥し粃水分を15%まで低下させ、再感染のリスクが少ない場所に保管します。

4 浸種 ⇒ 水温は10～15℃未満、長すぎる浸種は厳禁！

積算水温120℃を目安に、播種日から逆算して浸種をスタートします。長すぎる浸種は発芽率を低下させる原因となります。

水温は10～15℃未満とします。水温が上昇しやすいハウス内や日なたは避け、屋内または日陰で行いましょう。“浸種おけ”には必ず温度計を設置し、ふたで覆います。

※浸種温度が15℃より高いと「ばか苗病」発生リスクが高まります。

品種名	積算水温	浸種日数
はえぬき・ひとめぼれ・つや姫 雪若丸・ふくひびき	120℃	水温10℃で12日間 水温12℃で10日間

低水温（5～6℃）での長期間の浸種は出芽揃いが悪くなります。特に浸種開始の初日はお湯を加えるなど保温の工夫をして、水温が必ず10～15℃未満になるようにします。

薬剤消毒の場合、浸種初日から3日間は水交換せず、その後2～3日おきに交換します。

5 催芽

催芽温度は30～32℃とします（催芽温度が低いと「ばか苗病」発生リスクが高まります）。芽切れが1mm程度（ハト胸状態）に揃っていることを確認し、播種作業に移りましょう。

6 播種

例年、播種が早すぎる、または田植えが遅いことによる老化苗が見られます。老化苗は活着が劣り、初期生育がとれにくいため、適切な移植日から育苗日数を逆算し、播種日を設定しましょう。

	移植時の葉齢	育苗日数	乾粃重/箱	催芽粃重/箱
稚苗	2.2～2.5	22～25	150～170g	180～200g

※「雪若丸」は千粒重が大きいので、他品種より播種の重量を1割程度多くしましょう。
事前に播種量を確認してから播種作業を行ってください。

7 土づくり

堆肥や土壌改良資材（ようりん、ケイカル等）を投入し、初期生育の確保や品質・食味・収量の安定化を図りましょう。適正な土壌pHは5.5～6.0です。

徹底しよう！ 農業機械の安全対策

農作業安全確認運動 実施中 3/1 ～ 5/31